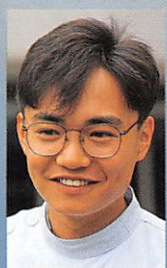
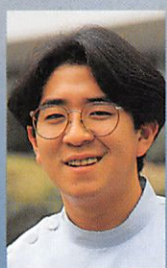


ZOOM UP



1993. No. 83

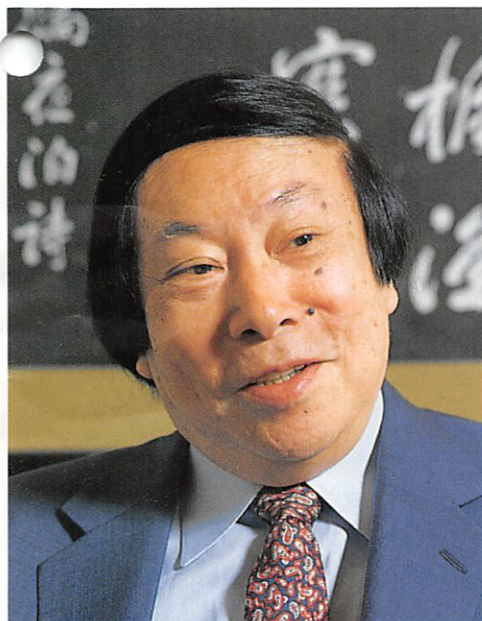


歯界展望

日本で唯一の女性医師専門の養成大学。設立は明治33年と古い、日本女性の戦前戦後の歩みを考える時、卒業生約7,000人と云う数字は決して少なくない。本校から巣立ち全国で女性のリーダーとしてその苦労や悩みの解決に努力したり、或いは女性の社会への貢献に希望や夢を与えた医師も多いことであろう。

ご紹介の吉岡学長は創設者吉岡弥生学長の甥御さんにあたり、初代から数えて5代目の学長である。

—歯科大学も戦前は女子専門と名がついた学校がありました、戦後なくなりました。



東京女子医科大学学長

吉岡守正

当校の場合は？「ええ、新しく外部から来られた先生の中には、最初は女子専門と云うことに対して疑問をもたれる方もおります。しかし建学の精神——明治の早い時期に、今では考えられませんが、人間として扱われていなかったほど強い女性差別、排斥に大変な苦労をして医師の免許を取得。その後も女性の社会的地位向上を願い本学を設立された過程をお話ししますと納得されます。戦後も一時期文部省から執拗に改名を云って参りましたが、本学建学の過程を話し現在に至っております。温厚な口調で丁寧にお話し下さる。—歯科もそうですが、医科も過剰と云われておりますか？「本学は以前から定員が100

名でしたので、削減にはなりませんでしたが、当時日本医師会と厚生省が今後の試算をし、過剰になるからと削減を始めましたし、私立29校もそれに沿って協力して来ました。しかし現状を見ますと、試算当時と比べて、医師の職域も大きく広がりましたし、国民の求めるもの——治療より健康を維持する方向に変わって来ましたから、その対処に必要な医師数も、現在は下回るようになってしまいました。現状に合わせた見直しの時期に来ているように思えます。—医科と歯科、現状を見ますともうお互いにその区別がなくなったと思うのですが、学長のご意見は？「歴史的に医科と歯科は別々に発展して来ました、確かに現実には口腔外科などを見ますとその領域

がはっきりわからないところまで来ています。私は門外漢ですが、どうもお互いに自己主張が強く、心のコンセンサスを欠くと云うのか意志の疎通が少ないように思われます。医科におきましても、外科と内科の領域がわからなくなっているのと同様に、医科と歯科も大局的立場にたってお互いに胸襟を開き、国民の健康維持を第一に考え、歩み寄る姿勢が大切だと思います。

お生まれ育ちとも東京。医者の子に生まれ当然のごとく医学の道へ。慶応大学医学部(専門は微生物)をご卒業。—今の医学生と比べられて学長のころは？「私達戦中派は皆さんそうでしたが、卒業前に軍隊に入れられ、国家試験もなしに医師免許を与えられました。生活ということ考えると、今の学生さんの方が恵まれていると思いますが、勉強内容を見ますと不可能なほど膨大になっておりますし、加えて倫理や言葉使い等、患者さんに接する態度まで学ばなければならない。並大抵の苦労ではないですよ。又卒業しても、私立ですとほんの4~5万の手当て、1人前になるまで数年は引き続き親のスネを齧らなければなりません。その点歯科はわりあい早く社会に受け入れられ、お金には恵まれている、と思いがいかかでしょう(笑)」。—当学は日本でも有数の病院、経営は楽でしょう(笑)。「とんでもありませんよ(笑)。原因は重症患者が多いことから当然出費も多いなど色々ありますが、とにかく看護婦が200人から不足しております。そのため病室もかなり閉じておりますし、収入は確かに全国有数ですが、収支は

皆さん考えられるほど楽ではなく、他の多くの病院同様赤字です。本当だろうか？と思う反面、もしそれが真実なら日本の医療行政はどうなっているのだろうか、という疑問が残る。—現在看護婦がそのように不足しているのなら今後高齢化社会を迎えるにあたって増々大変な事態になって来ます。入学定員(看護婦)増は考えられないのですか？「教室や実習室は出来ても先生が足りないのです。雨後のタケノコのように出来た学校数で先生はひっぱりダコ。入学者をこれ以上増やしても教育が出来ません。それと当病院でもそうですが、毎年多数の看護婦さんが入るのですが、退職していく人も多数で、国の根本的な対策が必要だと痛感しております。—学長も1人の患者さんとして歯科医院に行かれる。そのご感想は？「子供の頃から歯が悪く、切っても切れない間柄ですよ(笑)。でもあの雰囲気は……心理的影響は子供の頃から全く変化がありませんね(笑)。それと貴方達メーカーにお聞きしたいのですが、何故患者を真っすぐに寝かせる治療台を作っているのでしょうか？私は治療中ずっと、ツバカ喉を塞ぐのでは、という苦しい思いの連続なんです。ほんのチョットと角度を上げてくれるだけで、患者はずい分楽に治療を受けられるんです。色々事情があるのでしょうか、そうした点をもう少し考えてくれると有り難いですね」と辛口の言葉。患者さん中心の医療を。相手の立場にたって考える治療を……。大変参考になるお話である。「私もよく医学生に云うのです。出来るだけ大病をしろ。そして患者の心を呻吟しろ。医師はひたすら謙虚であれ。勉強、サービス精神は当たり前。決して傲慢であってはならないと」。71才の今日まで医療一筋に歩まれた学長の「医師を思う心」の結論ではないだろうか。

●略歴

- 大正10年7月 東京都に生まれる
- 昭和19年9月 慶応義塾大学医学部卒業、海軍軍医
- 21年10月 同学部内科学教室助手
- 22年9月 同学部細菌学教室入室
- 30年4月 同学部同教室講師、北里研究所助手
- 32年4月 北里研究所副部長
- 同年9月 米国シガン大学医学部細菌学教室客員研究員(昭和35年7月まで)
- 38年12月 北里研究所部長、北里大学教授兼任
- 42年3月 東京女子医科大学教授兼任
- 54年1月 東京女子医科大学副学長
- 56年10月 東京女子医科大学看護短期大学学長
- 58年4月 東京女子医科大学学長
- 平成3年5月 日本私立医科大学協会会長

私と朝日大学 歯学部

歯学部長
吉田定宏



■プロフィール

- 昭和27年3月 大阪歯科医学専門学校卒業
- 昭和27年4月 大阪大学歯学部選科入学
- 昭和28年10月 大阪大学歯学部助手
- 昭和36年9月 University of Illinois, College of Dentistry, 留学
- 昭和37年9月 Eastman Dental Dispensary (University of Rochester) 留学
- 昭和45年12月 大阪大学歯学部助教授
- 昭和46年4月 岐阜歯科大学小児歯科学講座教授
- 昭和56年4月 岐阜歯科大学副学長(昭和60年3月まで)
- 昭和57年5月 日本小児歯科学会会長(昭和59年5月まで)
- 平成元年4月 朝日大学歯学部長、大学院歯学研究科長
現在に至る
- 平成3年4月 岐阜県歯科医師会顧問 現在に至る

名古屋駅から東海道線でおおよそ30分。長良川を渡ったところが穂積駅。駅から車で4~5分、おそらく創設された当時は辺り一面濃尾平野が広がり、田園の中に建つ大学というイメージが強かったであろうが、現在は住宅やアパート、各種商店が道路に沿って建ち並び、一つの街を形成しつつある。

創立は昭和46年。当初は皆様もご存知のように岐阜歯科大学として当時の歯科医不足のニーズに応える為設立されたが、日本の国際化に伴い昭和60年、朝日大学と改称。総合大学として新たな一歩を踏み出した。

吉田歯学部長は、岐阜歯科大学時代から数えると5代目。朝日大学歯学部となつてからは2代目。歯学部長として通算5年目に入られる当大歯学部の育ての親とも云える学部長である。

ご本人は、「いやー、好きな臨床や研究がほとんど出来なくて、高等小使いみたいなものですよ」と笑って話されるが、過去発表された学術論文は約200、発行された著書・訳書約20冊という足跡は、日本の小児歯科の第一人者として世界にもその名を広く知られている大家のお一人である。

——昨今、魅力的な大学創りをと云うことで、全国の大学が新しいカリキュラムを編成されているようですが…「ええ、本学は以前から6年一貫教育の線にそってカリキュラムの改善を手がけておりましたので、昨年の新入生から教養課程、専門課程の枠をはずした新しいカリキュラムにそって実施しております。それに歯科医師という職業は出口に国家試験という蛇口ひねり(笑)がありますので、個性ある教育、全般的な教養が医師にとっては必要・不可欠とはわかっていても、現実的には余り変えられませんし、卒前教育では思い切った改革はむづかしいと思っております。」と苦悩を語る。昨年他の歯科大学の学長から講義内容を見せて頂き、そのすごさに驚いた。しかも2割近い学生がその厳しさに追いつけ

ず留年するという。医師にとって最も大切だと思われる心の温もりや患者の立場に立って施術する心等……。目今の成績のことを考えれば、とても身につける余裕などない。点数教育の極地と云っては云い過ぎだろうか。「ええ、ですから画一的にならない創造性に富んだ個性的教育や研究は卒後の大学院、或いは卒後研修などで磨いていくようにしなければなりません。本学では昨

米国のU.C.L.A歯学部と文化学術交流協定を結びましたし、それ以前にはN.Y州立バッファロー校、ドイツのフンボルト大学、中国の北京医科大学口腔医学院などと提携を結び、今年から学生を送り海外研修の機会をつくります。少人数ですが、そうした異国での研修経験が帰国後、他の学生にもインパクトを与え、建学の精神の一つでもある——国際未来社会を切り開く社会性と創造性を備えた歯科医師の養成に役立てばと思っております。

お生まれは奈良県。大阪歯科大学を卒業後、大阪大学に歯学部が新設されたことから、その選科に入り、保存学を専攻し阪大医学部で医学博士の学位を。その

米国内イリノイ大学、ロッチェスター大学に各1年間留学。そこで小児歯科学を学び帰国。阪大歯学部で教鞭をとっていたが、当校設立にあたり赴任。以来22年余り。

——現在のご心境、悔いはありませんか？(笑)「ここで比較的自由にやらせて頂きましたし、居心地も良かったから……。たのしい人生、全く悔いはありませんよ(笑)」。

又こうも「大学というところは、開業医とは違った苦勞もありますが、知的好奇心を満たしてくれます。そして自身さやる気があれば色々な研究をすることが出来ます。そういった意味で、いま考えても、私には開業医より大学に残った方が向いていたような気がしますね」。2年前京都で開かれた国際小児歯科学会では組織委員長として活躍。その他種々の貢献が認められ2年



後スウェーデンで開かれる国際学会では会長にご就任される予定。そうなれば日本で初の会長誕生となるわけである。

——近年、小児歯科から成人、さらに高齢者歯科へと社会のニーズが変わって来たように思われますが……。「確かに世の中の関心は移って来たように思われます。高齢者社会のニーズに即した変化は当たり前ではないでしょうか。ただ、小児と高齢者歯科では多くの共通点があります。まず横割りのなところまた双方とも行動科学的な面を基本に対応しなければならないところです。親近感を持って、全身に気を配りながら心を伴った治療をしていく。医師は誰にでもそうした医療を心がけなければなりません。特にこの双方にはそれが大切だと思います。それと将来を担う小児に対する良質の医療・保健は大切であるとともに老人の健康面でのアメニティもより求められます」。要点を文字に書いてしまうと硬いイメージになってしまうが、ご本人の印象は明るく気さくで、いたって話しやすい。この辺りが国際派として世界に通用する人間の条件か。「個性、創造性、幅を持った人間味豊かな歯科医に育つような環境をつくるのが我々教育者の務め。特に専門教育を目的とする歯学部は、ともしれば狭くなりがちな視野を脱し、リベラルな思想、幅広い教養や知識を求め、自ら学ぶ姿勢が必要です。6年の学生生活を通じて、その素地作りだけは教育者側も心してやって行きたい。そう思っております」。明治以降の日本の歩みを例にひきながら、当方にもわかるよう丁寧にお話し下さる。吉田歯学部長が中心となって作られた当大学の20周年記念誌「知的アメニティをめざして」を一読すると、既存を脱却し、時代の要求に応えた柔軟な教育姿勢が伝わってくる。真の国際派歯科医師として、後に続く者が育ち終わるまで、まだまだ活躍し続けて欲しい。63才である。

社団法人

茨城県歯科医師会



会 長／秋山 友蔵
 副 会 長／石井 研二
 副 会 長／豊島 徳郎
 専務理事／中島 早苗
 常務理事／石井謙二郎
 常務理事／大金 正幸
 常務理事／植竹 旭
 常務理事／上野 光
 常務理事／丸山 宇一
 理 事／石井 恒雄
 理 事／小倉 和夫
 理 事／柴岡 正規
 理 事／塚原 芳郎
 理 事／野溝 正志
 理 事／竹内 昌司
 理 事／入江 靖雄
 理 事／小林 一彦
 監 事／大畠 博
 監 事／野口 昭二
 監 事／安藤 進
 顧 問／片岡 常雄
 顧 問／村居 生二

JR水戸駅から日本三庭園の一つにあげられている、梅林で有名な偕楽園を右手に見つつ車でおよそ10分。県歯科医師会館は幹線道路に面した、奥行き長いゆったりとした広い敷地を充分に使って建っている。屋根に波形(?)の飾りを配した、3階建のグレーの建物は、しっとりとした落ち着きを見せており、役所の建物というより、モダンミュージアムといった印象を与える。

建物内部を簡略にご紹介すると。1階は県歯科医師会の事務室、役員室、口腔衛生センター・身障者小児歯科センター。2階は小会議室や談話室。3階が大会議室となっている。又、会館に続く別棟には茨城歯科専門学校が設置されており、県下の歯科衛生士・技工士の養成を担っている。

通された会長室には初代の会長であられた木田平太郎氏から始まり、第13代までの顔写



会長
秋山友蔵

真が掲げられている。秋山会長は第14代。今年9期17年目を迎えられ、その間日歯副会長、専務理事なども務められている。中央にもその名を知られている自他とも認められた実力会長である。

定例会議に先立ち8～9名の役員の先生方がお集まり下さったが、誌面の都合でお話をご紹介出来ず…。秋山会長、石井・豊島両副会長、中島専務理事の計4人の役員の方々に絞り、茨城県歯科医師会の歩まれた道、現状の活動、将来の方向等を語って頂いた。

弘道館から明治維新へと、水戸藩は気骨ある男性が多いと全国にその名を馳せたが、平成のリーダーである皆さんは口数が少なくいたって物静かで紳士的。チョッと気合を殺がれた感じである。

会長：本県の歯科医師会の歴史は、大正元年12月に15名の会員で設立されたことに始まり、途中他県でもそうでありましたように戦争を挟んで、昭和22年に現在の新生歯科医師会として改たなスタートを切っております。昨年80周年を迎え、その記念式典を催しましたが、会員の皆さんも協力的で、その点は幸せに思っております。

現在県民約290万人を会員数1,182名(平成4年10月)、非会員の方を含めるとおよそ1,400名位で担当していることとなります。会員の推移をみますと、ここ毎年40～50名の入会者でしたが、一昨年から昨年にかけては90名近い増加を示しており、全国的に云われておりますよう、

当県でも一般の診療所は年々経営が厳しくなってきたり居ります。茨城県は東京に近いにもかかわらず、かつては開発も遅れておりましたが、近年は工場誘致や筑波大学の設置等に伴って道路や鉄道が整備され、大きく発展して参りました。現在は一口に云いますと、古さと新しさが同居している県と申しますか、これら伸びてゆく県として期待しております。

Q：会長を支え、女房役としてご活躍の中島専務理事のご感想は？

(当会の良い女房というより“カカア天下”に近いですよ(笑)、と。ユーモアも兼ねそなえた愉快的な会長である。)



専務理事
中島早苗

中島専務理事：東京に近く、人口の移動、従って歯科医師の出入りも多いのですが、非会員の方には個別に訪問し、入会を勧めております。学術団体ですから、即自分の利益につながる、という訳には行きませんが、団体として物事に当たるメリットも多い筈ですから、共に協力して県民の健康づくりにあたって頂きたいと思っています。県歯会の役員等も、ともすれば歴史のある大学に片寄りがちだったので、新しい大学の卒業生にも加わって頂き、巾広い組織、開かれた県歯会として運営して行きたいと思っております。

Q：石井副会長、当県歯会の特徴を何か？

石井副会長：特別当県だけのと云う訳ではないんですが、県歯会が直接携わっているデンタルスタッフの養成校——歯科衛生士、技工士、及び身体障害者センターの3つの施設を水戸市と土浦市の2ヵ所に



副会長
石井研二

持っているということですね。現在県内では、デンタルスタッフの不足が深刻になっていますので、入学定員も50名から100名に増員すると共に、レベルの高い養成校として歯科医師、ひいては県民のニーズに応じて行きたいと思っております。その他、全国でも比較的早い時期に受賞した保健文化賞を機に発足した茨城歯科保健賞を民間企業にも協賛して頂き、毎年団体或いは個人を対象に実施しております。

豊島副会長：会長が16年間県会議員として活躍された実績があるものですから、行政とのパイプも太く、実行、和を保つことで、会も大いに助かっております。当会館も22年前、会員数が500人台の時建て

たため、倍以上に多くなった現在、対応しきれなくなりました。後を継ぐ後輩のことを考え、デンタルスタッフをも含めた新会館を、と現在検討中です。



副会長
豊島徳郎

Q：全国を回っていて、よく若い先生方から将来の歯科医師界はどうなってゆくのだろう、という質問を受けます。会長のご意見は？

会長：日歯のやるべきことと各都道府県歯がすべきことは分かれておりますが、要はこの自由主義経済下の生存競争の中で、努力を怠れば必ず自滅して行くということです。ですから、そうした勉強・研修を側面から支援していき、個人ひいては全体のレベルをひきあげる役目を果たすこととデンタルスタッフの育成が、我々

県歯会の務めだと思っております。当会でも毎年茨城歯科医学大会と称し、日常の臨床に即役立つ研修・学術大会を開催。今年は時代に合わせ、要望の強い感染症対策を主題に開きました。朝から夕方まで、かなりハードなスケジュールでしたが皆さん熱心で、好評のようでしたから今後も中身を充実させ続けて参りたいと思います。県民のためには「フォトイばらき」という雑誌が県広報課より発行されておりますが、毎号その中に会としての県民活動や歯に対しての啓蒙記事を掲載しております。現在、歯科界をとりまく環境は、決して楽観を許さず、多事多難の時期を迎えておりますが、我々の責務は「人類の生命への奉仕」です。そのための勉強・努力を吝しんではならないし、又そうした実績が必ず国民のコンセンサスを得られ歯科医師界の発展につながるものと思っております。特にこれからの歯科界を担う若い人達に、温故知新の精神で進まれることを期待しております。

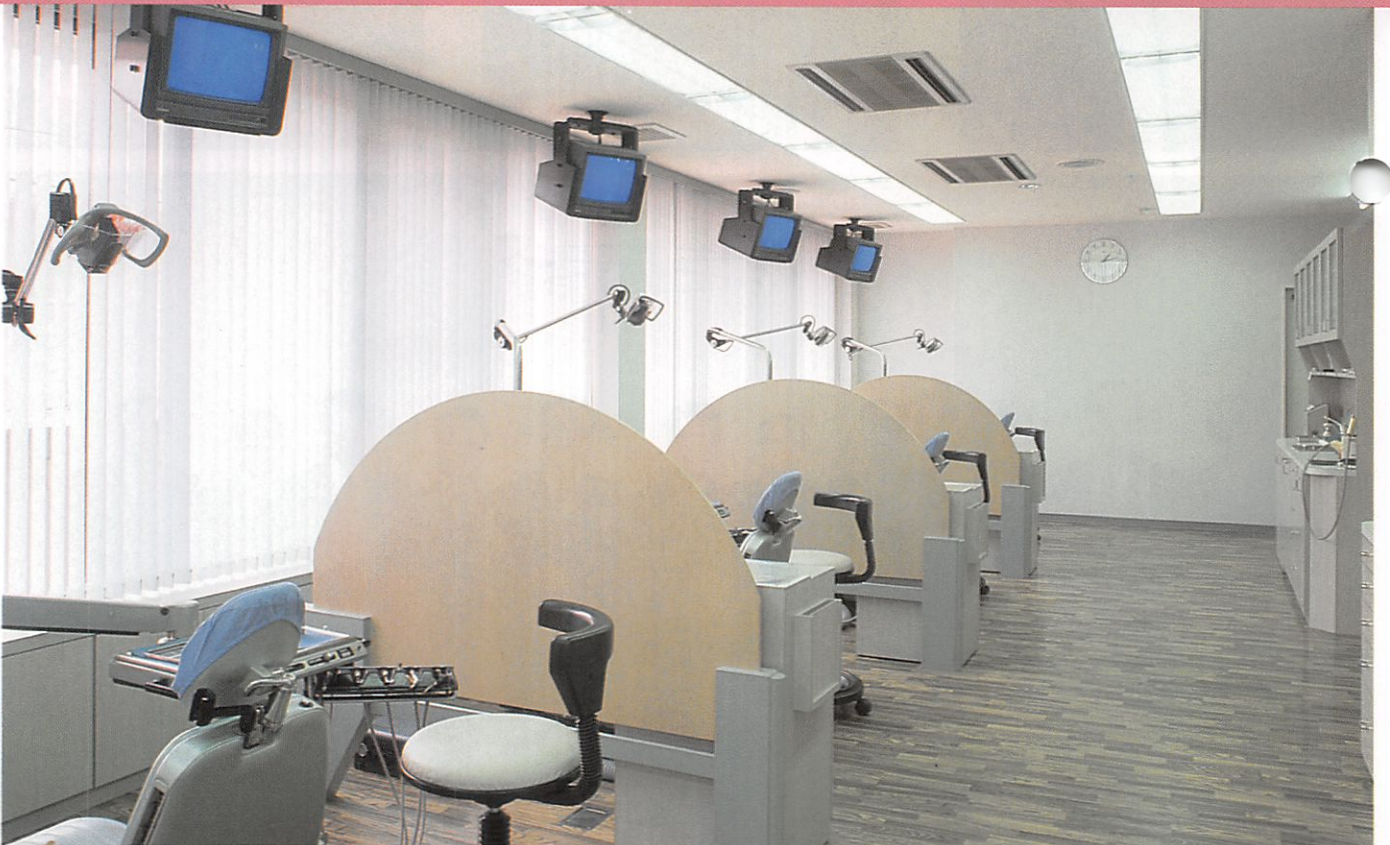




井上歯科クリニック

埼玉県新座市野火止1-14-17

院長 井上 達





東武・東上線志木(しき)駅から、まだ田畑が点在する緑豊かな武蔵野の丘陵地を車でおよそ20分。井上歯科クリニックは新座市商店街を抜けた市役所横通りと呼ばれる幹線道路の角地に堂々とした姿を見せていた。敷地85坪を一杯に利用した4階建のビルは、1階を駐車場、2階が診療室、3階は遠来患者、外科手術者のための休憩又は入院等に利用するベッドルーム、院長室、スタッフルーム。4階は技工室、他をワンルーム・マンションとして、主にスタッフの休憩又は宿泊室になっている。

側面の円柱を配した吹き抜けの階段から玄関へ。

待合室は道路側にアール状の大きな窓を取り、その傍らには身障者や高齢者のためのエレベーターを設置されている。ゆったりとした待合用椅子を挟んで広いオープン形式の受付。入って左側の側面は大理石模様の壁。中程の大きな熱帯魚の水槽を通して内側のカウンセリングルーム、特診室がわずかに見える。

大きな窓に沿って角面に作られた診療室は、半月状のセパレーションに分けられて、ユニットが7台。更に外科手術用と思われる特診室(個室)に1台、計8台が。中にシルバ一色のスマイリー<ファイン>4台、GM4台が並び、チェア前面上部にはそれぞれ専用テレビが設置されている。図面でもおわかりのように、通路を挟んだユニットの背面は、X線室、消毒コーナー、カルテ棚、義歯収納、その他必要な書類・器材入れ等、それぞれが

独立した形で設けられている。これならスタッフ同士や患者さんとの動線が交差することなく、自由に動き回ることが出来る。

十分なスペースを効率良く設計・使用した素晴らしい医院である。

院長は昭和54年に城西歯科大学(現明海大学歯学部)をご卒業。その後、熊谷の野上歯科、更に同市の中村歯科医院にて研修・臨床実習を学び、昭和56年開業へと踏み切る。その後11年間、此処から3~4分のテナントビル内で開業されていたが当地を取得。昨年5月当ビルを建て、名実共に理想とする歯科医院を作られた。

当年42才。壮年の働き盛りであるが、ご自身の勉強欲も人一倍。特にインプラントにおいては、日本、アジア、アメリカ、国際等の各学士・学会に入会し、役員を経験しつつ、講演もされているという、自他共に認める努力・実力派だ。

尚、今日は取材を、ということでご自分で開業されている奥様(城西歯科大学卒・旧姓山田)にも同席して頂き語っていただいた。

Q：名実揃った素晴らしい診療所ですね。歩まれた過程は？

院長：大学卒業後、ナソロジーに興味を持ち、勉強している過程で村岡博先生や小林治喜先生、更に小嶋寿、小嶋栄一先生を知りその講演や診療を見せて貰う機会に恵まれました。その後インプラントに興味湧き、先生方と共に世界的に名が知ら

れる外国の先生方のオフィスにも訪問出来るようになりました。こうした大学で勉強して来たこととは違う未知なる新しい体験は、歯科医師としての私の人生、考え方を変えたといってもいいほどです。

Q：インプラント。誌上でも色々な先生方からお聞きしておりますが、部外者の私には賛否両論に思えます。施術者である先生のご意見は？

院長：毎年アメリカインプラント学会(AAID)の学会等に出席したり、Dr. リンコーやDr. ワイズ先生の完璧ともいえる症例を見せて頂き、インプラントの施術方法は素晴らしいと思っております。ただこれは患者さんにより、又マテリアルによって手術するケース、過程が異なります。ただ云えますことは、これは決して永久的なものではなく、インプラントを入れることによってその時々、年をうまく生きて頂くことが出来る一つの手段である、ということです。そして最後までインプラントで結果をみながら材料や方法によりリカバリー出来るということです。ですから後々の再治療までを考えた手術をしていくことが大切だと云えます。患者さんによって異なりますが、私が13年前にやった方で、今でも完璧という方もおられます。

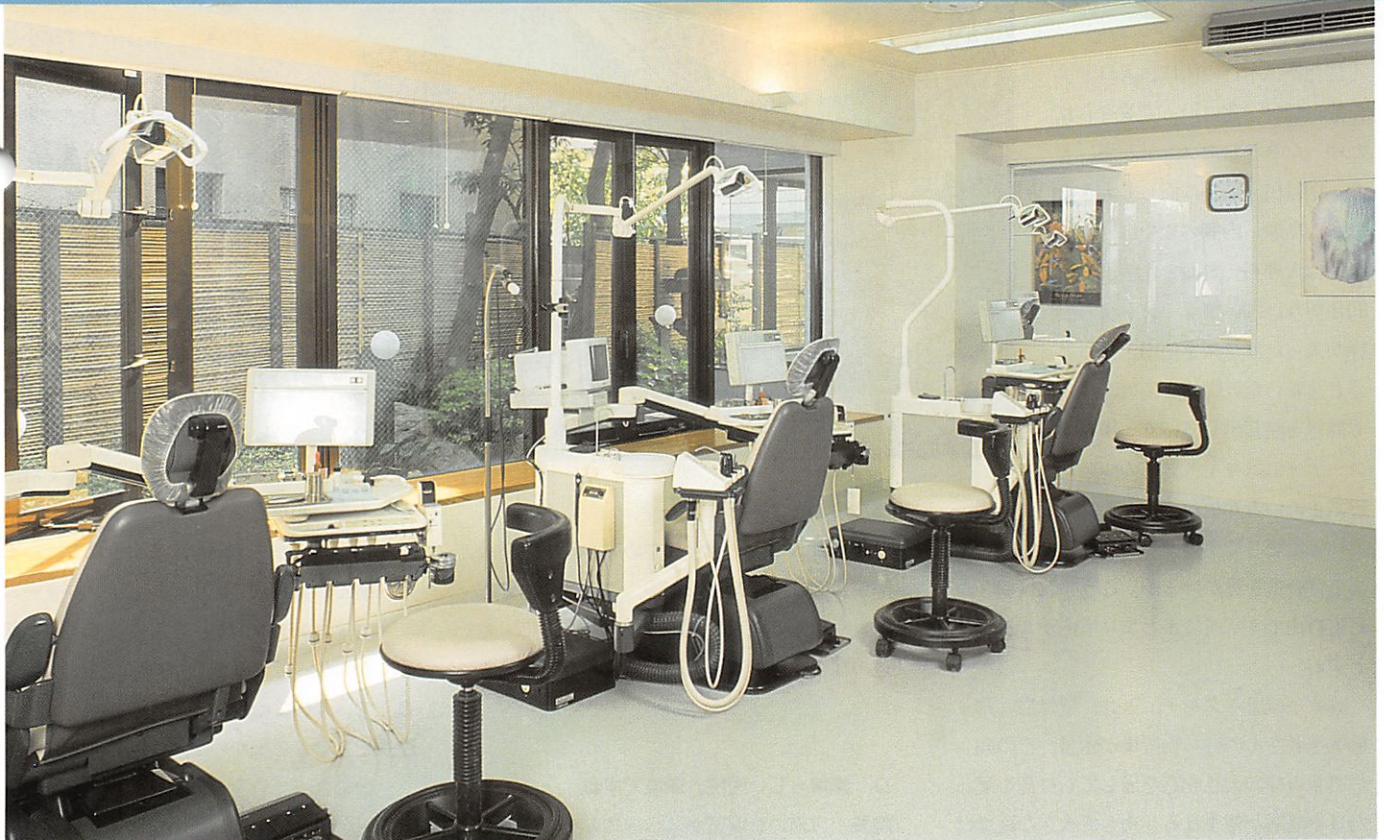
Q：話がタイトル(診療室訪問)と異なりました(笑)。新しく診療室を作られるにあたってご留意された点は？



東 歯科医院

東京都渋谷区恵比寿西1-26-6 アレッシェ恵比寿1階

院長 東 正久





JR恵比寿駅と東横線代官山の中間にある高台の高級住宅街の途中に建つ地下一階、地上3階のグレーの潇洒なビル。この1階に一昨年移転、再開業された東歯科医院。院長の生まれ育った実家にお父様の発案で建てられたとのことであるが、近くに幹線道路が走り繁華街も2〜3分とは思えないほどの静けさ。抜群な環境である。

ビル側面より7〜8段階段を昇って診療所玄関へ。

待合室は木目の床に、入口ドア一枠、受付、窓に沿って並べられたゆったりとしたソファが黒。天井・壁は白。道路に面して大きく取った出窓。内側のやや広めの飾り棚は大理石。奥面の化粧室との間仕切りは細いブラインド状の模様が入ったガラスを使用。しっとりと落ち着いた近代的な歯科医院の雰囲気を出している。傍らのコーナーにはキャスターのついた

磁気止めの告知板が。時々ところかまわず、といった感じでポスターやお知らせが貼ってある待合室を見かけるが、こうすれば貼りかえも自由で1ヶ所にまとまり室内がスッキリとする。

診療室は床がグレー。天井、壁は白。飾り棚兼患者さんの持ち物置場が木目。その向うに濃茶の枠の大きな窓を通して石灯籠を配した日本庭園が望まれる。決して大きな庭では



ないがこの都会のと真ん中。さぞ患者さんはホッとすることであろう。

窓に沿って並列に並んだ濃淡グレーのスマイリー<ファイン>L型2台とモービルタイプ1台。更に奥面には素通しガラスで完全個室の診療室が作られている。中には同じくファインモービルタイプが1台。院長のお話によると、週1回位の割で診療する矯正専用

室とのことである。

院長は日本大学歯学部卒の第30回生。卒後医局に残り研修を積んだ後、ここより10分程離れた恵比寿駅東口近くで開業。一昨年、先述の様に此处実家跡地にビルを建て再開業された。

Q：素晴らしい医院、環境ですね。

院長：以前の診療室がスペースも小さく手狭

でしたので、近年盛んに云われ始め、又私達が今後注意しなければならない院内感染防止対策を完全にするための機器設置等で悩んでいたところ、父がそれなら自宅でやったらということで、私の年齢ではちょっと贅沢だと思いましたが移転しました。

Q：歯科医師を志された動機は？

院長：父が成りたかった職業のようで(笑)。末っ子ですが小さな時から洗脳され、いつの間にか、というのが実感です。この医院設計も父の意見が大部分入りましたから(笑)。

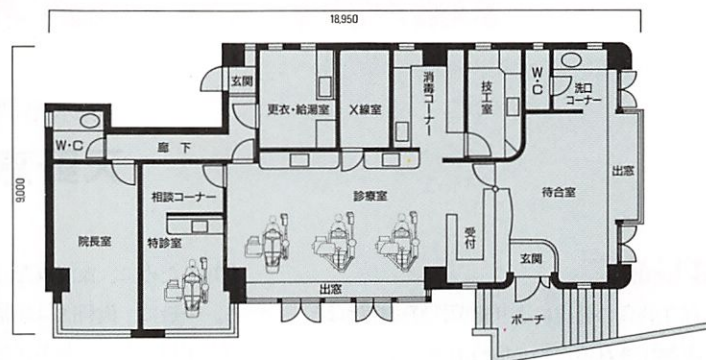
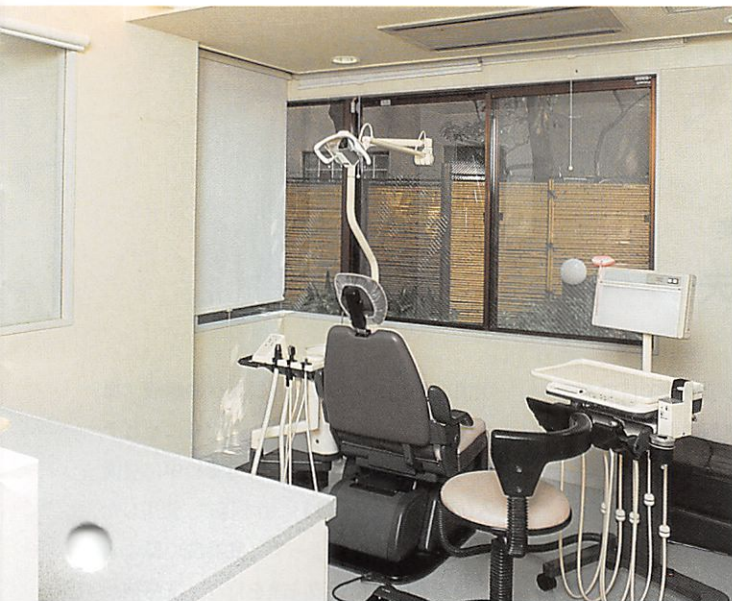
Q：どんなことを云われたのですか？

院長：とにかく患者の立場で治療をしろ。忙しいと云って、決して手抜きをしてはいけない。どんな場合でも丁寧な治療を心掛けろと。そして対話

も専門的な言葉を入れず、必ず患者の納得を得てから治療をするようにと。いま盛んに云われていますが、インフォームド・コンセントを、そんな訳ですと前からやっておりました(笑)。

Q：で、今のご心境は？

院長：もともと細かいことが好きですし、自分に合っているな、と思えます。親もきっと小さい頃から私の性格を見抜いてい



たんでしょうね。

Q：診療室を作られるにあたってご留意された点は？

院長：明るく動きやすいこと。圧迫感がなく、掃除のしやすいように。庭を作りましたが、スタッフも患者さんも目が休まり、好評のようです。

Q：スタッフは何人で1日何名位診療されていますか？

院長：ドクター2名(内1人は矯正医)、衛生士2名、受付1名で、患者数は1日およそ20名位ですね。

Q：患者層は？

院長：以前の診療所の患者さん。それと当院は自動車で遠方から来院される方が結構多いんですよ。父の関係していた仕事の紹介患者さんですね。同じ渋谷区内でしたから移転・再開業等の継続は全く問題ありませんでした。

Q：ご自身、スタッフ等の勉強は？

院長：私は同窓会が開く勉強会や地元歯科医師会開催の研修・講演会等に参加しております。スタッフの研修は、前の診療室時はやっておりましたが、今はほとんど。でも全員で昼の食事をしますから、その時々で色々注意したり、話し合ったりしております。

Q：オサダの<ファイン>ご使用感はいかがですか？

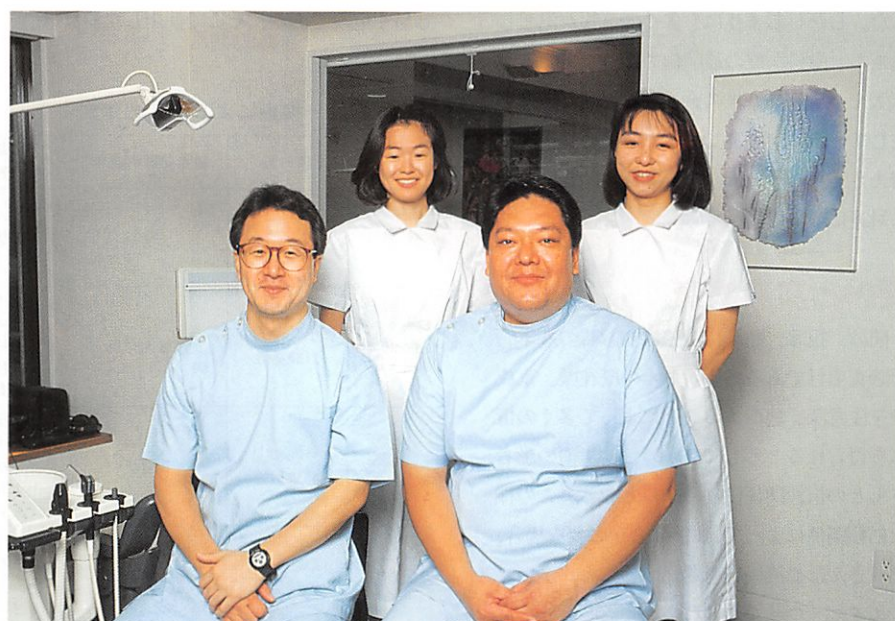
院長：以前の診療室は他社製品を使っていま

した。実を云うと最初の開業時にはオサダのことはあまり知らなかったのです。此処に移るにあたって同級生や先輩に相談しましたら、皆さんユニットならオサダが良いよ、と云われ…。今度はじっくり選び決めました。評判通りメンテナンスも良く使い易いですね。ただ、L型2台、モービルタイプ2台を入れたんですが、総てモービルタイプの方が良かったように思えます。と云いますのは、当院では子供の治療の時は、お母さんもいっしょに診療室に入ってもらいますが、その時、前でちょっと押さえてもら

うためL型はアームが邪魔になるんです。ユニットの使用感は全く問題ありませんし、担当の方も一生懸命やってくれますが、その点が、ちょっと残念でした。

Q：その他何かありましたら。

院長：いま院内感染防止対策を皆さんやられているようですし、当院もオートクレーブの他にE.O.G滅菌器やディスポーザブル器材を使ってやっておりますが、ほとんど医院の負担というのが実状です。こうした実態を早く把握して貰い、別枠でもよいか時代に即した診療報酬の実施をして欲しいと思いますね。



オサダの商品
〈お元気ですか〉

畑 歯科医院

栃木県鹿沼市下田町1丁目1205

院長 畑 二郎
副院長 畑 健一
畑 和美
(旧姓・荒田)



現在は鹿沼土、鹿沼石の名で園芸や石材に利用される産地として関東では名高いが、もともとは近世の日光西街道の宿場・市場町として栄えた街である。

ご紹介の畑歯科医院も、古い町並みが続く、しっとり落ち着いた商店街の中に建っている。玄関に入って靴を脱ぎ、傍らの木の階段を昇って2



階の診療室へ。医院全体が木を主体に使われているイメージが強いが、白一色を見慣れている者にとってはかえって落ち着く。日本人にとって「木」の素材はやはり大切なものだと感を深くする。

院長は東京医科歯科大学を昭和20年にご卒業。当時の医学生は皆さんそうであったように院長も歯科軍医候補生として広島へ。終戦となりお父様が開業されていた東京・深川へと復員されて来たが、辺り一面焼野原。そのまま疎開先であるお母様の実家、此処鹿沼市に。以来45年余り。地域の歯科医師として、患者さんと共に歩まれた、今年69才を迎える大先輩である。

「開業当初は、どの先生方もそうでしたが、朝早くから患者さんか並び無我夢中の日々でしたが、現在では息子が戻り後を継いでくれるのんびりと昔からの患者さんや難しい入れ歯などをやっております。今になってみれば忙しかったことも良い思い出となりました(笑)」。——日本の歯科医療が30年代後半位から大きく変化しましたが、大変でしたでしょう。「そうですね。ただ私達と同世代の人達がその頃から助教授、教授となって各大学で活躍しておりましたから、教を乞うたり共に勉強したりで、今息子と共に治療をしていますが最新と云われる材料や施術法はともかく、隔たりはあまり感じませんね」。

副院長として、お父様が変わって現在当院を背負っておられるのが、鹿児島大学歯学部

を卒業されたご子息健一氏と同じく同大卒業生の奥様である和美先生。——親子断絶は感じませんでしたか？「卒後勤務医を経て、4年前に帰って来ましたが、細かいテクニックや考え方は多少違って当たり前ですし、患者さんが父を指名するということはほとんどありませんでした。他で開業しようという気持ちはありませんでしたね」。「ただこの辺りは東京などと違って住民の移動が少ないものですから、親子3代~4代に亘っておつき合いもあり、信頼が第一。何しろ私が赤ん坊の時から知っている人達も多く…。気は使いますが(笑)…」。——お父様を見ていて感ずることは？「感心するところは患者さんとのコミュニケーション。やはり話しは上手ですね。悪いところは(笑)、時々患者さんと喧嘩してますよ(笑)」。いやー、でも、と院長。「色々な患者がいますからねー。自分の権利ばかり主張したり、注意を無視したりすれば、医者ですから



多少怒るのは当たり前ですよ。それも相手のことを思えばこそ、なんです(笑)」。

——奥様は矯正を主にやられていると云うことですが…。「ええ、以前3年間勤務していた、千葉・行徳の矯正専門の先生のところ、初めは週3回、今は週1回ですが、通って勉強し、後の日はここで診療をしております。同じ院内に大先輩がいることは何かと心強いし、何より甘えられるのがいいですね(笑)」。



——院長先生。この辺りも歯科医師が過剰気味ですか？「多いですね。逆に人口が少しずつ減って来ておりますから、次第に厳しくなって来ております。ただ、歯科医師としての研修・勉強は昔から熱心なところで、今東京でやられている口腔衛生指導などはかなり昔から採り入れておりますし、勉強家の先生が多いということは自慢できます」。——歯科医師45年余り。将来の歯科界をどうご覧になりますか？「私達の頃と違って、今の若い先生方はマスコミとの交流も活発ですし、従って国民との相互理解も深くなり、良い方向に向かっているように思えます。過剰、保険、医療過誤等、難しい問題も抱えておりますが、こうした交流が将来きっと花開くと思っております」。

15年前ご購入頂いたスマイリーN2台。それと並んで若いお2人のために濃淡グレーの<ファインGM>2台が。「オサダのユニットを昔から使っておりますが、何よりメンテナンス。これが良いのが一番ですね。L型を選びましたが、お年寄りには落ち着くようで評判はいいですよ」。



何より良いのはメンテナンスの良さ。15年間使っておりますが全く支障がない。息子達のために今度は<ファインGM>を選びました。

Z O O M ち C L O S E - U P



藤巻五郎先生 の巻

東京都千代田区神田淡路町1-19
藤巻ビル2階(パストラル歯科)

地下鉄淡路町駅から徒歩2～3分。小川町交差点に近いビジネス街のビル2階にご開業17年目を迎える藤巻先生。祖父の代からの土地だと云うことであるが、思わず住所を間違えたかと思うほど表示らしい看板が見当たらない。医院入口も小さな木彫りで申し訳のように「Fujimaki D.D.S.」の名が。ドアも重い鉄扉。なんだか来院者を拒んでいるような雰囲気さえ感じられる。

が、お会いした先生。スポーツ選手のように明るく気さくでカラリとしたご性格のよう思わずホッとします。

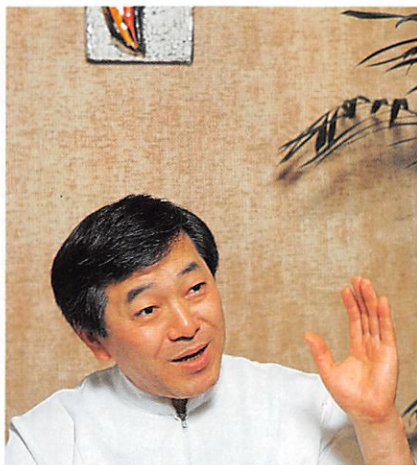
医院のイメージと院長の方針。その段差には、院長の歩まれた道程—特に青春の日々に多大な影響を与えた恩師達の歯科医師としての生き方、言葉が今日の方向を決定づけたようだ。

今回は、その恩師のお一人である東京・銀座でご開業中の山本為之先生のリレーにより神田の診療所をお訪ねした。

「山本先生と親しくお話が出来るようになったのは、もう13年程前になりますか。山本先生の“よく噛める総義歯セミナー”の第一回目の受講生になった時からです。その後診療室にも時々お邪魔して“山本方式”が臨床に非常に役立ち、患者さんからも喜ばれますので、更に深く色々教えを乞うようになりました。特に義歯はご存知のように熟達した年齢に入らないと難しく、そのヒントを得たいと……。その間、先生の人間性にも深く触れることができ、歯科医師としての生き方共々勉強させて頂いております。」

お生まれは八丈島。9人兄弟の8番目として育ったが小中学時代は、音楽好きからさらにはラジオの組み立てに凝り、毎日ラジオばかり作っていたことから勉強が進まず……。突然父親からカバンにノートと筆入れのみ渡され、“今すぐ東京に行って勉強しろ。ラジオ作りは一切まかりならん”と。2時間後には貨物船に乗せられ太平洋の荒波上でした、と昔の中学時代を愉快そうに話される。日本歯

科大学卒業後、基礎研究室で勉強しつつ、同時にバイトで臨床を。「臨床医となって患者さんに接してみると、大学で習ったことと臨床現場の差の大きさに戸惑い、自分自身の壁にぶつかってしまいました。そんな時、Dr.ビーチの教えを受け、その壁を乗り越えることが出来ました。が、今度は、治療した患者さんの定期診査時の状態がどうも治療計画時の思惑からはずれている。これはいったいどうしてなのだろう、という疑問の壁にぶつかり……。アメリカ歯科医学—つまり物質文明の限界に悩み始めました。そんな時、片山恒夫先生のセミナーの案内が目にとまりました。山本先生にお聞きすると、若い人にはきつと良い勉強になるからと云われ出席。目を覚まされる思いをしました。それまで歯科診療は極端な言い方も知れませんが、部品交換の歯科



治療だ、と思っていたことが、人間自身が持つ生命力、即ち患者さんの持っている回復力を引き出す手助けをするのが医師としての役目と思えるようになったのです。ですから審美性を例にして言えば今は単なる表面上の美、例えばポーセレン等も本人のよほど強い要望がある場合以外は一切しません。それよりも、患者さん自身の生活の中で悪くなった過程を考え、反省し真の健康美とは何かを追求して頂く医療を、という方向に変わって来ました。それまでの西洋一辺倒の歯科医学から片山先生との出会いにより、私自身が悩んでいた医療の在り方の真の姿を、ボンとフタを開けて貰った、そんな思いがしています。片山先生との出会いは私の歯科医師としての一生を決

めた、生命につながることも云える出会いでした。人にはそれぞれ、その時々色々な出会いがある。が、それは己が常に反省し、悩み、真剣にそれに取り組む心と受容力を持ち続けていなければ、たとえどんな人間と会っても解決・向上にはならない。先生の歯科医師として真剣に生きる熱情が伝わって来る。又こうも「医師というのは最高の職業です。来院者は身体を病み、悩みを抱え—即ち迷える子羊という形で来られます。その人達に水のある場所を教え、草原に導き、希望をもっていただくことの出来る職業、例えて云えば牧人でもあると思うのです。それについて面白い話があるのです。当院の名前は「パストラル歯科」と云うのですが、これは音楽が好きだった高校時代、ワルター指揮のベートーベンの“田園(パストラル)”を聞き感動し、将来自分で会社を持つようになったら必ずこの名前をつけようと思っていたんです。

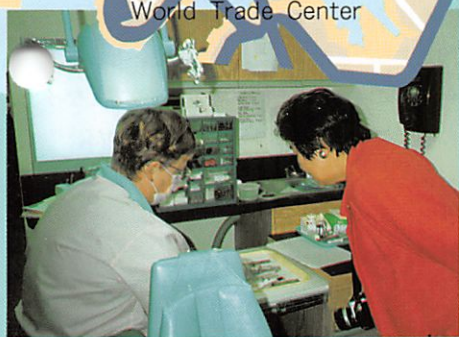
或る時アメリカ人の牧師のご家族が来院されました、パスタとはある宗教では牧師であり、精神的指導者を指す、と云われたんです。私自身そこまでは知らなかったし、ただ藤巻歯科医院では私という個人色が強すぎ、医院の思想、オフィスポリシーが出ないという理由と先程の話しから名付けたのですが……。患者さんからその真の意味を教えられ驚かされました。「私はこれまで歯科医師という職業を通して素晴らしい人生の師と巡り合うことが出来ました。中でも山本先生や片山先生は日本の宝だと思うのです。こうした方々から歯科医師という生き方を充分学べば、外国からわざわざ講師を呼ぶ必要などないと思います。この本に私の名前や顔を出すよりこの方達の写真を並べた方がずっと価値があるのでは(笑)」。「大学を卒業してから10年は勉強、その後10年はその実践、残りをそのチェックの時間とよく言われておりますが、すでに卒後24年目です。ヘルスケア・パフォーマンスとしての私の生き方が、今後どんな結果として出て来るのか。人間の存在とは？人は何故病気になるのか？医療とは何か？等々。数多い問題を一つ一つ提起しながら歯科医師としての一生を全うしてみたい」と結んだ。

「ウォーターサイド・ デンタル・グループ」 のオーナー、 ジーン・古山医





建物風景



古山医の説明を受ける筆者

此処ニューヨークですら、日本からの歯科留学生は、居てもまだ2人位だ。コロンビア大学に3人いる、と聞いて調べたら、二世だった。
 しかしNY周辺での、日本人向け医療施設はどんどん増えている。日本経済の国際化で、駐在員やその家族、留学生、長期滞在者が急増しているからだ。
 この紙面の1977年(昭和52年)の19号で、当時マンハッタンで、日本人歯科医としてただ一人開業していたヨシトミ医のことを取材し、「国際人ピーター・ヨシトミ医の日本の若い人に送る言葉——『世界一になれるのだから、世界一になれ!』」、を書いた時に比べると、全く雲泥の差となった。
 日本人の人口が多いNJ(ニュージャージー)州のフォート・リー地域には、「ジャパニーズ・歯科グループ」、NY市には「ジャパニーズ・メディカル・ソサイエティ」等が誕生し、日本人患者の便宜のみならず、医師同士の情報その他交換のネットワーク機関となっている。



ジーン・古山歯科医

今回取材したジーン・古山医(以下F医)は、「ウォーターサイド・デンタル・グループ」という名で知られる歯科診療所のオーナーである。

「ウォーターサイド」という名称は、マンハッタン東側23丁目の、イースト・リバーの埋め立て地に建てられた高層建築の中にあることからきている。

アパート・ビルなのだが、囲まれた住宅地といった環境で、中にはクリーナー、レストランは元より、スーパーや薬局なども存在する。

此処に開業したのは81年だそうで、最初の3年位は、日本女性のアシスタントと2人であったが、今ではフルタイムの歯科医2人、専門医(エンドドンティストとペリオドンティスト)2人、ハイジニスト1人、歯科学生1人、アシスタントは日本人が2人、アメリカ人が1人、そして受け付け1人——計10人の診療所に成長している。

生れた時から、「将来〇〇になる」という職業意識で育てられる男性と違って、女性の場合は、自然展開式に特定分野に入っていきケ

ースが多い。

F医の場合もそうで、このウォーターサイドのアパートの住人となったのは、75年に彼女がNY大学の歯学部に入學したからだった。目と鼻の先で、通学に便利だったからだ。

歯科医となった過程も全く自然展開だった。彼女はアメリカ人だが、古山氏と恋に落ちて結婚し、3年半日本に住んだ。息子は日本で生まれたが、赤ん坊の育て方の本が無い。英文で書かれたもので、それに近いものは医学書だけだった——。

医学書を沢山読んだ彼女は医学に感心を抱くようになり、帰米して医者になろうとした。ところが医学部は28才迄の学生しか入學出来ない。彼女は既に30才だった。それで希望を、医師から歯科医に切り替え、歯科医となった。

卒業したのは79年で、1年インターンをし、その後9ヵ月前出のヨシトミ医のところで働いた、というから縁は奇なるものである。私が彼を取材して、3年後のことだ。

それから女性友人と組んで、ワールド・トレード・センターに診療所を開業しようとし

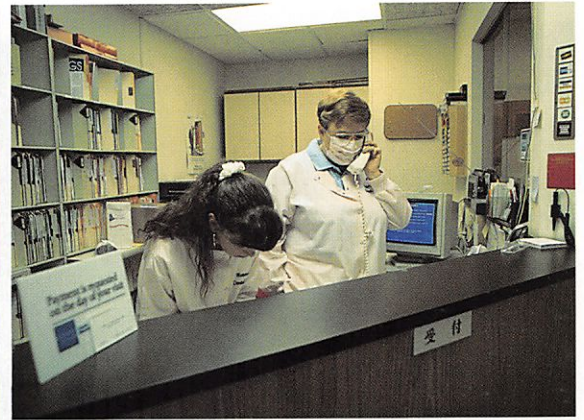
た。ところが会計士を含め、皆が反対した。理由は、競争が激しい、コストがかかり過ぎる、etc——つまり、成功はおぼつかない、だ。

それで此処、ウォーターサイドに、独りで開業することとなったわけである。ところが結果的にいうと、それが最高のやり方となったのだから、運命とは分からないものだ。

まず第一に、競争がなかった。そして何よりも、ラッシュ・アワーの地下鉄に乗っての通勤をせずとも良い。彼女のアパートから、エレベーターで一階の診療所に降りていくだけだから、治療の間に、アパートに戻って休むことも出来る。そしてこの囲まれた住宅地には、ざっと1000以上の世帯がその家族達と生活している。患者の中には、近くの国連勤務の人、隣のカソリックの学校に通学する子供達。日本人の家族も多かった——。

患者のプロフィール

現在患者数は、1500~2000人位だそうだが、その35~40%が日本人、10%がアイリッシュ、その他は殆どアメリカ人、という。何故アイ



リッシュかという、彼等はカソリックなので、隣のカソリックの学校に通学する子供達、その家族、という風に発展したからだ。

治療の多くは矯正だそうだが、それに関して面白い話となった。

アメリカ人歯科医の患者の85%は、上顎の方が大きい、異文化患者が多いF医のところでは、その50%は、下顎の方が大きい、という。日本人もアイリッシュも、下顎の方が大きいようだ。

F医は、その日の診療スケジュールを見て、日本人患者だとホッとするという。

日本人患者は、「礼儀正しく、協力的で——たとえば、治療し易いように口を大きく開けてくれる、F医の意向にかなうように気を遣ってくれる——治療代もきちんと支払ってくれる、」とここ迄きて、彼女は声を出して笑った。「その上、絶対、裁判沙汰にしませんからね!」。

日本国内で、日本人相手に治療する医療機関の人達にとっては、全く「当たり前」のことが、アメリカでは美德となるのだ。それ程、

環境の差がはげしく、人々の態度も異なる。

心の安まる有り難い患者である故に、F医の「日本人の歯の衛生態度」に関する思い入れは、並々ならぬものがあるようだ。

近年、流石に意識向上が些か見られるものの、日本人の歯の衛生に対する態度は、基本的にいって、1977年にヨシトミ医を取材した時からあまり変わっていないらしい。

ひとつは文化の違いから、もうひとつは多分に、日本の社会保険制度から生じる認識の差、態度の差といえよう。

たとえば、日本人が「可愛い」と意識する糸切り歯的な曲がった、又はとび出した歯だ。「可愛い」のは日本国内だけのことで、一步外に出ると、歯の手入れを怠る「非衛生な人、最悪の場合は、「吸血鬼ドラキュラー」のイメージとなる。歯科医の立場からいうと、「掃除しにくい歯」となり、未来のムシ歯の絶対候補なのだ。

歯の衛生管理が、どれ程相対的健康と深い関係があるか、ということをしらなすぎず。

たとえば、日本人患者は、アメリカでは常

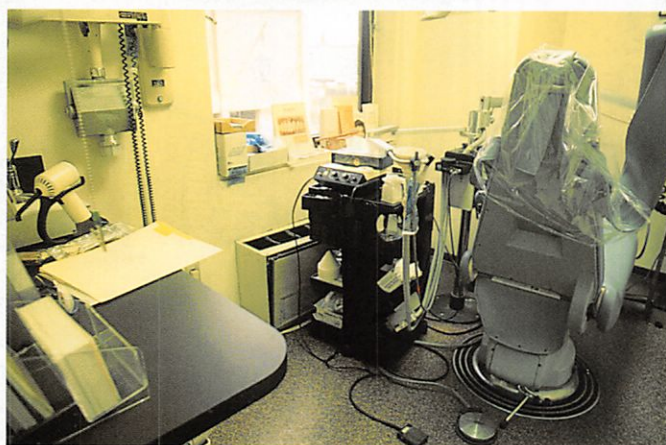
識となっているデンタル・フロスを知らないか、知っていても使おうとしない。衛生観念が希薄だから、「面倒臭い」のだろう。歯科医側の、患者向け歯の衛生教育も、アメリカとは相当異なるようだ。

近代的食餌は、歯を弱くする傾向が強いから、歯の衛生教育は以前にも益して大切なことである。ベビーの歯のケアも、怠ると、将来口腔衛生上の問題発生となり易い…、と、日本人の歯ということになると、F医の話は尽きない。

又、日本人患者に対する思い入れも深いだけ、悩みも深いようだ。

たとえばルートカナルだが、最初の時のやり方が理想的に出来ていないと、後でそれを修繕するのは大変難しい。患者側は痛まないから、「やり直した方が良い」と忠告すると、えてして——儲ける為の提案?——という意識につながるようだ。

だからF医は、既に放っておけない問題という段階に達していなければ、タッチしない場合が多い、とつらそうな表情で私に云った。



F医は精力旺盛で、又、大変な努力家だ。

現在NY「ジャパニーズ・メディカル・ソサイエティ」の幹事、そしてそこで発行されているニュースレターの編集長でもある。

元、「アメリカン・ソサイエティ・フォア・ザ・スタディ・オブ・オーソドンティックス (ASSO)」の幹事、そして「アメリカン・アソシエーション・オブ・ウイメン・デンティスト (AAWD)」NY支部の会長もしていた。

F医は、AAWD会長として、自分が達成したことのひとつを、誇りやかに話してくれた。協会、つまり人が集まるところには派閥がつきものだが、AAWDもその例に洩れず、彼女が会長になる迄、女性歯科医の年長者グループ、年齢的に若いグループ、そして地域グループ——の3つのグループ間で、喧嘩が絶えなかったようだ。それを彼女が会長になってから、仲直りさせ、相互協調・協力へと持っていったのだ。

ひと言で、「仲直りさせた」といえば簡単だが、実際には大変なことで、そう簡単に出来

ることではない。

「その方法は？」と簡単に聞くと、「アイ・トークド」、返事の方も簡単だ。

この簡単極まるやりとりを、我流に「通訳」して要約すると次の様になる。

- まず彼女は、「会長」として最も重視すべき役割は何か、という事を真剣に考えた。山ほどやるべき事のある中で、この協会の運営上、そして長期的に健康上(つまり成功)で、何が基本的に、一番大事なことか、を吟味した。この過程で、当然、「何の為にこの協会はあるのか？」とその意義の原点の再確認となった。
- その結果、協会が設立目標に添って成長していく為には、まず、メンバーの歩調が揃わねばならない、と確信し、それでは、どうしたら良いのか、となった。各派閥が喧嘩する理由は何か？摩擦の原因の中でどれが自我(利己的)に起因し、どれが取り上げるに値する苦情か…？
- 「どうしたら良いか？」は、コミュニケーション

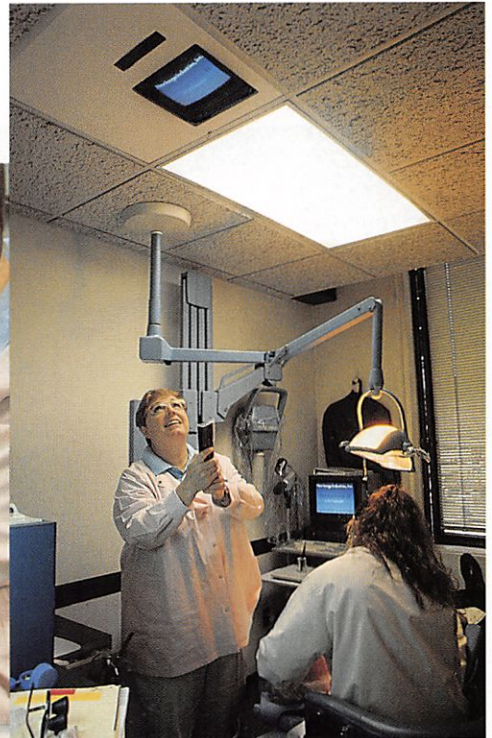
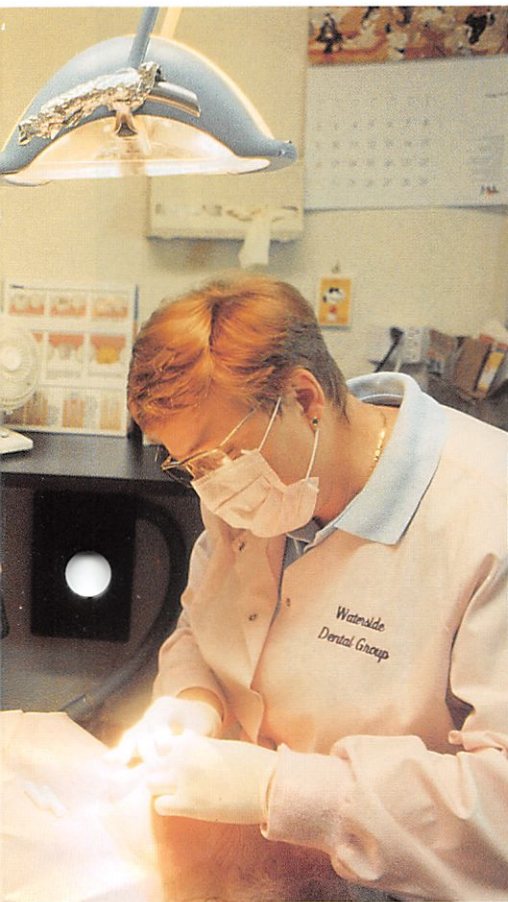
ョンでしか、解決出来ない。つまりまず、摩擦の理由を「聞いてまわる」。情報収集・調査である。次に、取り上げるに値する苦情の理由を、「効果的に」、苦情対象のグループに伝える…。

つまり、折り合わない三者の間に立っての取り持ち役だ。どれ程上手にコミュニケーションをする方向に持っていか、で全てが決まる。F医の返事は、「しゃべりました」というひと言だが、このコミュニケーションに、何ヶ月かけたことだろう。「思いやって」聴き、「思いやって」話す人でなければ、取り持ち役はつとまらない。

進取の気性

私は、進取の気性に富む人と話すのが好きだ。常に前向きで、冒険談は芋づる式に尽きるところを知らず、楽しいからである。

F医の診療室の天井にはテレビが入っている。使用目的は2つあり、ひとつは好きなビデオを患者さんに見せて、リラックスさせる



天井に取り付けられたT・V

為、もうひとつは、治療中の実景を写して、患者の心理的参加と啓蒙を促す為である。

この内外オーラル・カメラでビデオ・イメージングする器具施設は、3年程前に市場に登場したそうだが、NYの歯科開業医でこの器具を備えているのは1%位という。コストが高いからだ。

患者をリラックスさせる為のビデオの中には、沢山日本のものが見受けられた。受付の横の壁にある棚にズラリと並べられた様子は、まるでレンタル・ショップさながらだ。

今年の12月14日は、古山博士と結婚して25周年という。彼との出会いは、彼がフルブライトの留学生時代で、「彼は、私の英語のクラスの生徒でした！」と笑った。

彼と出会う5年程前、彼女は日本に、2週間の観光旅行をし、「男性天国」の日本男性達に、驚いて帰国した。「女性に対する思いやりがない」「お酒を飲み過ぎる」「平気で酔っぱらう…」etc.というわけで、「日本男性と結婚するアメリカ女性の気が知れない。私なら絶対

しない」と思って帰ってきたそうだ。

「ところが彼と恋に落ちてしまって！」と大笑いする。

結婚することになったが、彼の親が、「絶対いかん!」と許してくれない。彼女の親は、アメリカのことだから、心配はしても認めてくれた。結果的に、彼の方は親に勘当されてしまった…。

12月に結婚して、翌年の5月に、2人で日本に行ったそうだ。彼の親に夫婦として挨拶する為だ。羽田空港から電話したら、「訪問は良いが、泊めるわけにはいかない」。

親から見れば、「これ迄親孝行で、聞きわけの良かった息子を——」勘当せねばならぬ程聞きわけをなくしたアメリカ女…ということだったのである。

それでその夜はホテルに泊まり、翌日会いに行った。会ってしまえば分かってくれ、全て目出たし、目出たしとなって、今日に至った。

こういう経験を通して、F医が効果的コミュニケーションのあり方を学び、体得するこ

ととなったのは確かだ。

古山博士の専門は、ポリマー・ケミストリーで、微粒子分野と聞いた。現在NYのアサヒ化学の幹部である。

2人の趣味は、テニス、ゴルフ、音楽、旅行、アート、そして「美味しいものを食べること」特にフランス、イタリア、日本料理が好きなようで、殆ど毎晩、外食らしい。

F医が日本人の患者への忠告を列挙すると、

- 予防が大事です。歯が痛くなってから駆け込む習慣を直しましょう。3ヵ月か、少なくとも6ヵ月に一度は、歯医者さんの門をくぐり、定期的に歯の点検をするよう心掛けてみましょう。
- 歯ぐきは、歯の衛生上、最も大切なところですから、フロスを使うよう心掛けて下さい。歯は、朝起きた時だけでなく、寝る前も、出来れば毎食後みがくよう心掛けましょう、である。



アパートで談笑する植田医と筆者



特定専門分野の為のアメリカ留学

近年、日本の歯科医が、特定専門分野の知識・技術習得を目的として、アメリカに来るケースが増えているようだ。ハーバード大学にも、現在3人程、日本から来ている。

今回F医の紹介で会った植田医も、日本歯科大学を出た後、日本で歯科医を6年経験、89年にタフト大学に留学した人だ。T.M.J.(歯の噛み合わせ)を学ぶ為である。昨年暮れに卒業。2年3カ月にライセンスを取得し、ニュージャージー州に開業したばかりだ。

授業は勿論全部英語なので、大変だったらしい。日本語で医学専門用語を知っているにも、役に立たないからだ。試験では、A(100~90点)とB(89~80点)迄が合格で、79点以下はやり直しとなる。

ライセンス取得も、アメリカの方がずっと厳しいらしい。

日本の国家試験はペーパーテストだけで、それに通ると、即刻、沖縄でも北海道でも、開業出来る。

アメリカでは、まず2つの試験にパスしなければならない。ADAの書類試験と、歯科医としての技術テストで、これは地域的に行

われる臨床試験で、インレイ(アマルガム)、スケーリング、入れ歯、のテストである。

学生の責任で、テスト用の患者を探さねばならぬそうで、テストの「前日に、その患者が亡くなった場合もあるのです」と植田医は、如何にそれがハラハラする過程か、ということ語ってくれた。

そして更に、アメリカで開業するには、選んだ州の特定規定をクリアせねば、そこで開業とはならないのだ。

植田医の話を知っていると、アメリカの歯科医療のレベルが如何に高いか、が確実に伝わってくる。研究環境も、ずば抜けて良いようだ。

たとえば図書館だが、「日本歯科大学の図書館は大きいと思っていたが、タフトのそれと比べると、『図書室』と彼は云う。壁はピンクで明るく、椅子もふっかりと座り心地が良い。「その上、夜は11時迄、そして週末の土・日も開いているのです。」

機材・器具・材料の「ADA認可」も、日本のように簡単ではない。「3つの別個の研究機関でOKとなって、初めて『ADA認可』となるのです。」

彼は、日本人は「どンドンアメリカに来れば良い」という。語学のハンディで、最初は確かに厳しいが、「留学して3年位して、日本人は実力を出し始める」そうだ。

F医の、「日本人患者だとホッとする」ということから訴訟の話となった。

「訴訟は、消費者を守ることにものなるのですよね」と彼は云った。「訴訟に耐えられないような医療はあるべきではありません。日本で訴訟がないのは、患者が我慢しているからですよ。」

そう云われて、私は思い当たることがあった。

留学する前に、日本で抜歯したのだが、アメリカに来て暫くしてから、その隣の歯が悪くなり歯医者に行った。レントゲンをとったアメリカの歯科医は、ビックリした表情で私に云ったのだ。

「何処で抜歯したのですか？根が一本残っていますよ。」

筆者紹介

岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒業
ランコインターナショナル社長



DENTAL SPACE

岡本歯科医院

東京都狛江市東和泉3-3-15
エルマビル2階

院長 岡本美世子
(旧姓・浅野)

一般的ですが、明るく圧迫感のない室内と十分な医局員室。限られたスペースでしたが使い易いですね。

小田急線・和泉多摩川駅。町田方面に向かってホーム後方に降りると、目の前に「岡本歯科医院」の名が見える。復々線の工事下で、現在は駅舎改造中。多少大回りしなければならないが、2~3年後に完成すれば、駅前に建つ好立地の歯科医院となることであろう。

グレーの螺旋状の階段を昇って2階の診療所へ。

待合室はフローリングの床に天井、壁は白。入口ドアの枠、受付台、背後のカルテ棚が黒、待合用椅子は赤と、思い切った配色をさ

れているが、それが若々しくモダンなイメージを与える。

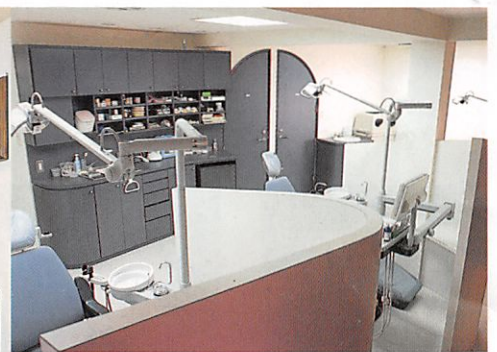
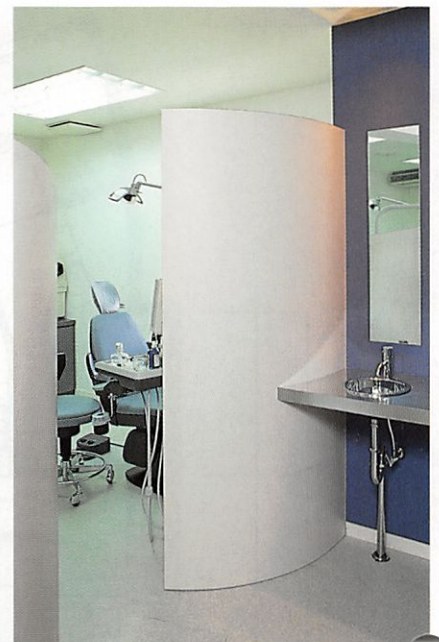
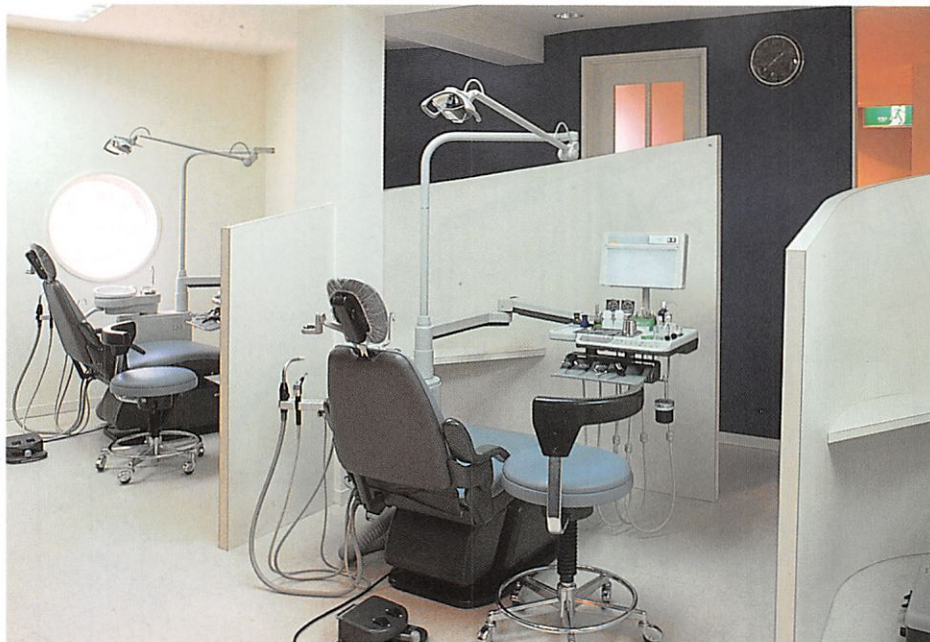
診療室は、入口壁面と後面キャビネットを濃い紫色とし、パーティションや床、その他の壁、天井を白又はグレー系の明るい色でまとめられている。パーティション内に3台設置された〈ファインGM〉はグレイッシュブルー。ビル内ゆえ限られたスペースであるが、都会風に効率よく、動きやすそうな院内設計である。

院長は東京医科歯科大学を卒業後、神田で

ご開業されていたお父様のもとで臨床の実際を学ぶ。その後同大で知り合ったご主人(司氏)と結婚。共に診療生活を送っていたが、子供が出来たことを機に、生まれ育った実家に近い此処狛江市にご開業、独立された。尚、現在神田の浅野歯科医院はお父様の後を引き継いで、ご主人が運営。

今日は取材を、ということで、産休中であるが、生まれたばかりの赤ちゃん共々出勤して下さり、色々語って下さった。その間当診療所はご主人と代診の先生が交代で治療にあたられていると云う。従って途中からご主人司氏にも同席して頂き、診療所設計や医院方針などを共に話して頂く。

Q: ご主人も歯科医師という恵まれた環境ですが、女性には避けて通れない出産=育



院長：神田の診療所を改装しましたので、その経験を活かそうと……。天井は出来るだけ高く、医局員室を充分にとること。内部は明るく動きやすいこと。そして外部から院内が見えないことなどです。4つの設計会社をお願いし、色々な案を出して貰いました。

Q：では全く不自由は感じられない？

司氏：患者さんに高齢者の方が割合多いのですが、入口のドアがちょっと重たいようです。それと階段の手すりはぜひ必要だと思います。やはりまだ至らぬ点もあるので、今後手直しをするつもりです。又診療室内のセパレーションについては、患者さんには良いようですがスタッフ同士の意志の疎通に欠けるきらいがありますね。どちらが良かったか、難しい



ですね。

Q：患者層は？

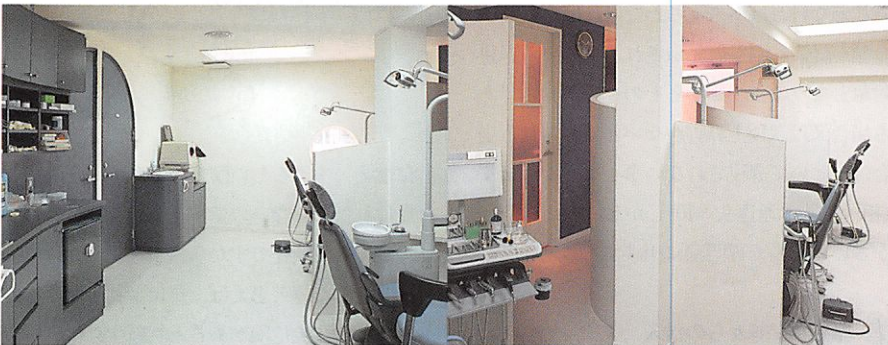
院長：周辺から自転車で来られる主婦の方が多いですね。それと神田の診療所へ通っていた小田急沿線の方々や府中、川崎

方面の方はこちらに来て頂きました。まだ1年未満、その間も休んでおりますので私自身もちょっとまだ落ち着きません(笑)。

Q：ご自身の勉強は？

院長：主人から教わることと、診療室で専門誌など読んで勉強しておりますが、家に帰ると家事に追われて自分の時間が取れない、というのが現状です。でも医師ですから研究や勉強は必要。落ち着いたら自分なりに、と考えています。

司氏：神田の診療所はビジネス街で働く患者さんが多く、治療についての説明も精神、肉体、金銭的等、幅広い説明を要求されますが、こちらはそうした疑問・認識を持つ患者さんの割合はちょっと少ないようです。開業医にはそうした説明は不



可欠とっておりますので、今後は徐々にその割合を高くして行かなければとっております。

Q：オサダの「**ファインGM**」。ご購入頂いた動機は？

司氏：初めはファインがデザインもいいし決めようかと思ったんですが、展示室でこのファインGMを見て、説明を聞きこれで充分と決定しました。少し安かったし。本当に付加価値の高いユニットだと思います。神田は実は他社製品なのですが、1つ1つ比べていくと、このユニットは良く出来ていると思いますよ。それとアフターが良いという評判とイメージ。それがオサダを選んだ第一の理由ですね。

Q：歯科医師界に何か？

司氏：病気などで休んでもお互いに助け合

る互助会のようなものが出来たら良いと思いますね。皆が一国一城の主でいる時代ではなくなってくると思いますし、ぜひ実現に向かって作り上げたいと思っております。

Q：最後に、後に続く女医さんにアドバイスを。

院長：せっかく大学を出て免許を取ったのですし、途中育児等のために休んでも又復帰することは可能です。ただ女医にとっては協力者が不可欠。私は幸い主人が協力者になってくれ恵まれています。後輩や先輩、友人等に頼んだり、それぞれ環境は違いますが、患者さんのことを考え、乗り切る気持ちがあれば必ず出来ます。私は今その最中ですが、何とか頑張っていて、と思っております。

歯科医院の新築・改築・増築から、
医院経営まで、
すべてわかる。



歯科医院

定価10,300円
(本体10,000円)

開業ガイド

〈主な項目〉

- 歯科医院のセクション別実例
 - 歯科医院のレイアウトチェックリストと基本事項
 - 歯科医院のレイアウト実例
 - これから開業される先生方へ
——オサダからのアドバイスへ
- 〈別冊付録〉
設備機械、器具、材料リスト



歯科医院

定価6,180円
(本体6,000円)

経営マニュアル

〈主な項目〉

- 開業準備の留意点
- 開業準備計画書／開業収支・資金計画書
- 歯科医の節税戦略（青色申告）
- 特別経費・専従者給与
- 損益通算・特別償却
- MS法人・医療法人
- 財テク・税テク 他

※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業株／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(3492)7651(代)



皆川修慶とマリンアイランダーズ

開業医の傍らハワイアン・バンドを結成。
 関東から東北にかけての出演は
 プロ顔負けの売れっ子ぶりである。

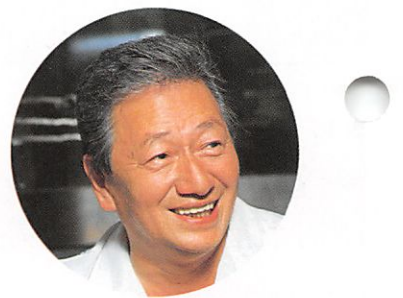
♪小さな橋の下、川の流れに…。♪…君知るや南の島。次々と演奏される軽快なハワイアン音楽に、お客さんは足や手、あるいはフロアで踊りリズムに酔う。

今晚の出演は、根岸線洋光台駅にほど近いミュージック・バブ「クレイドール」。赤や青の豆電球が点滅し、天井には銀色のミラーボールが回る店内は、いやが上にもムードを駆り立てる。

今ステージ上では、ハイビスカス模様のアロハシャツに白ズボン姿の「皆川修慶とマリンアイランダーズ」の皆さんが、紅一点のプロ歌手渡辺洋子さんに合わせ、ハワイアンを奏でている。

このバンドを率いるのが、横浜市歯科医師会の常務理事をも務める皆川修慶先生である。8人のメンバーは自営業者、サラリーマンと各種各様の職業を持たれているが、もうお1人、先生の片腕としてこのバンド内で活躍されているのが、同じ東歯大卒で皆川先生の後輩にあたる、歯科医師の三森信春先生である。

まず皆川先生に——ハワイアンとの出会いは？「もう45年前になりますか、小さな頃から音楽は好きでしたが、中学時代このハワイアンを聞き夢中になりました。このメンバーを結成したのは5年ほど前です。皆さん以前はプロとしてやっていた方が多いのですが、



今は音楽だけで生活するのが難しく、ほとんど他に職業を持っています。もちろん東歯大の頃はハワイアンのクラブに入り先輩、同輩に交り一生懸命でしたが、その後は仲間も全国に散りますから自分だけでたのしんでおりました。が、たまたま中学時代の後輩に演奏者がいると聞き、さっそく集まり結成いたしました。——出演料は？「これ専門ではありませんから、お車代程度ですよ(笑)。でもストレス発散と、とにかくハワイアン音楽が好きということが長い間やって来た原因ですね。今ではちょっと信じられないが、戦後20年



代半ばから30年代初めにかけて流行したハワイアン音楽は、荒廃した若者の心に夢や潤いを与えたことは、岡晴夫の唄う“憧れのハワイ航路”や映画“ハワイの夜”の爆発的なヒットでもわかる。「出演の依頼はやはり夏と年末のクリスマスシーズンが多いですね。出演はこうしたパブやクラブの他に、結婚披露宴や各種パーティーなどですが、年間を通して60回以上はありますね。好きが昂じてもう気違いですよ(笑)」。近年、誌上でも皆さんおわかりのように、医師という職業は暖かい心や幅広い知識・教養が最も大切、と云われている。とかく視野が狭くなりがち仲間同士のみのつき合いを脱し、自ら進んで他の職業人やグループに入っていられる先生方も多い。皆川先生や三森先生のように多面体の生き方、それも単なる趣味の域を越しているのは凄い一言につきる。「もちろん、歯科医が本業ですから昼間はキチンとやっておりますよ(笑)。会の仕事も歯科医師としての勉強も。ですから忙しくてバンドの練習はほとんど出

来なく、ぶっつけ本番です。レパートリーは約100曲、時間の都合さえつけば、秋田、福島方面にも出掛けます」。

三森先生の方はいかがですか？「皆川先生は36年卒、私は40年卒の後輩ですが、もともと東歯大のバンドは伝統があり、私も格好がいいからと入部したのが狂いの始まり(笑)。



バンドクラブの知り合いで、卒業後皆川先生の診療所に勤めたのですが、仕事は全然厳しくなく、厳しいのは音楽ばかり(笑)。勤務医が終わったら故郷(静岡・伊東市)に帰るつもりが、どうしても先輩に止められ、今は市内(海岸通り)で開業しております(笑)。

でも仕事はキチンとやっておりますよ。それでないと楽器も買えませんから(笑)。ええ、好きなギターには凝る方ですね。音楽をやっていると時間を忘れてしまいます。腕の方はまだまだですが(笑)。30分間隔で3ステージ。途中から皆川先生の原語の歌が。三森先生はコンガにも挑戦。8時から始まった演奏は回を重ねるごとに盛り上がりゆく。

「本場ハワイに行ってやりたいのですが、お金を取るのはユニオン等の問題がありまして無理のようです。いまこの世界はプロとアマチュアの区別がなくなって来ました。楽器を持てば初めての人でもすぐ気心が知れますし、性格も判断できます。お客さんも喜んでくれますし、私達も共にたのしめる。小さな頃クリスチャンの学校で讃美歌から入り音楽を趣味として生きて来ましたが……。本当に良かったですよ」と皆川先生。

エンディングのテーマ曲はマナクレーの月。当方の頭も、音楽か酒のためか？ポーとやって来た。

アシスタント紹介



吉田歯科クリニック

東京都東村山市萩山町4-12-30

院長 吉田隆義

峰岸あゆみさん 幸田あゆみさん
赤津 理恵さん 唐田 澄子さん
田中真知子さん 平井 晴世さん



新宿より西武新宿線に乗りおよそ40分弱。西へ西へと開発が進んだとはいえ、ここ萩山駅周辺は、まだまだ武蔵野の面影を色濃く残す緑豊かな別天地を思わせる。

ご紹介の吉田歯科クリニックは駅から徒歩で3～4分。静かな住宅街の真ん中にある。

院長は東京医科歯科大学を卒業後、母校の第2歯科補綴学教室を経て、昭和61年3月にご開業。同じく副院長で女医であられる奥様と共に、7人のスタッフを抱えてご活躍。患者層を考え土曜、日曜もローテーションを組んで診療にあたっておられると共に市歯科医師会の理事をも勤められておられる中堅医師。そんな院長のご性格が好感を呼ぶのであろう。患者数も1日30～40名と多い。

ご紹介の6名の女性スタッフ。皆さん取材ということで緊張しているためか、こうした職業に勤められている割には口数は少ない。が、それがかえって誠実でしっかりした印象を与える。

最初にご紹介する峰岸さん。西東京歯科衛生士専門学校を卒業し、当院で5年目を迎えるそろそろベテランの域に近づいた主任衛生士さん。衛生士学校に入られた動機を「医療関係に進みたくて初めは看護婦になりたいと思っていましたが、クラブの先輩から看護婦さんは夜勤や重症患者の面倒など大変なことが

多いと云われ……。経験を活かし長く勤められる職業、ということで歯科衛生士学校を選びました。——で今のご感想は？「本当のこと云うとこんなに大変だとは思いませんでした(笑)。今後はわかりませんが、今は衛生士が1人でしょ。相談相手がいらない友達(専門学校時代の)と話しても、システムが医院によって違うし……。責任を持って衛生士の仕事を全うすることって難しいですね」と悩みを話してくれる。「それと昨年2月結婚したのですが、主人は公務員で帰りが早い。時々文句を云われ(笑)……。ちょっと疲れきみかしら(笑)」。何が大切かを模索しつつ自分の責任範囲を総てやり遂げようとする心が伝わって来る。キャリアと家庭。ぜひ頑張って貰いたいものである。

幸田さんは峰岸さんと共に当院のもう1人の主任、といってもキャリアは3年のご返事に、思わず、ん？「でも学生時代に歯科医院でアルバイトをしたり、此処の開業時には手伝っておりましたので、一通りのことは知っております」のご返事に頷く。この職業観を？「人のために尽くすことが苦にならなければ、患者さんに感謝され、喜びを与える仕事ですから良い職業だと思います。院長については「仕事中は相手が病む人ですから厳しくて当然ですが、普段はやさしい院長ですね。

それと何より良いのは、決定は院長ですが、必ずスタッフの気持ちを聞いてそれになるべく沿う方針で運営してくれることです。テキパキと質問に要領よく答えてくれ気持ちいい。良い患者さん、あまり感心出来ない患者さん、双方あると思うのですが？「ほとんどは良い患者さんなのですが……。(笑)。うーん？と首をかしげたくなる患者さんは、一般的ですが口が汚れたままで治療台に座る人。それと治療中に過保護と思えるほど子供のご機嫌をとるお母さんですね。でも、ほんの軽い気持ちで云っておりますから、と。さすがは主任。優等生のご返事である。

赤津さんは高校を卒業し、当院に入って2年目を迎えたアシスタントさん。気をつけていることは「私もそうでしたが、歯科医院って怖いイメージがあるでしょ。それでなるべく言葉をかけて、そうしたイメージを無くしてあげられたら、と思っています」。院長先生は厳しい？「普段はやさしいんですが、工作中、特に衛生面で不注意なことがあると怒られます」と。院内感染は患者さんばかりでなくスタッフも最重要課題として今全国的に叫ばれている。これから育ていくスタッフに注意を喚起する院長の暖かい人柄がわかるようだ。

唐田さんも同じく高校を卒業し、当院に入



局されたこの道2年目のアシスタントさん。
「小さな頃歯医者さんに通って、女性の方が親切でテキパキ動いていた印象が心に残っている。この職業に入りました。で今は「この医院は私達と同年輩の患者さんが割と少なく、子供さんかずと年上の人が多いんです。でも子供は大好きですし、年輩の方にはいろいろ教わることが多いので、大変ですが勉強になります」。社会人2年生であるが素直で誠実な人柄が言葉の端々から伝わる。「覚えることが一杯あって大変ですが、先輩の皆さんが明るくやさしいから、大丈夫頑張れます」と最後に。今後がたのしみなアシスタントさんである。

田中さんも昨年入局のアシスタント2年生。「高校時代アルバイトで歯科医院で働き、この職業を知りました。その時は毎日洗い物ばかりでしたが、先生や助手の方々を見て、ちょっと色々勉強したくて高卒後すぐこの医院に来ました。仕事は大変ですが、ここは小さな子供が結構多いですから毎日がたのしいで

すね。7月に結婚するのですが、結婚後も出来たら続けたいです。ただ、今は急患などで遅い時は通勤時間もかかるので家に着くと9時頃で、そのまま寝ちゃうでしょ。それがちょっと心配(笑)」。口数が少なく内気な印象であったが、最後はニコリ。

平井さんは今年3月入局されたばかりのピチピチホヤホヤのアシスタントさん。

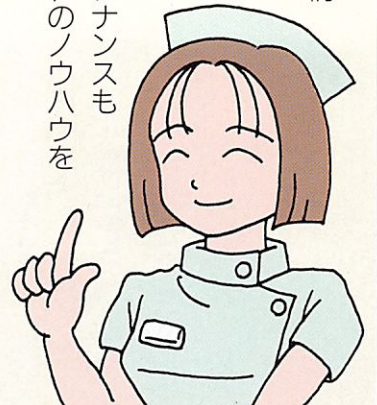
「商業高校でしたので、就職先はほとんどの人が事務関係でしたが、私は動いていることが好きで、多くの人達と会えることからこの職業を選びました」と入局動機を。——で就いてみての感想は? 「最初は慣れないし、覚えることが沢山あって、疲れました(笑)。でも近頃やっと慣れて来ましたし、医院の雰囲気も良いので、たのしい続けられそう。今のところは他の職業に移る気はありません」とハッキリ。気をつけていることは「子供さんは別にして、ほとんどの人が私より年齢が上。言葉遣いや態度には失礼がない様しております」とのことでした。

アシスタント のための 診療室の手引き



定価6,180円
(本体6,000円)

アシスタントとしての心構えから話し方、患者さんへの対応の仕方、会計、消毒、手渡し技術等々をわかりやすく解説。また、簡単な機器・機械のメンテナンスも
 図付で説明。アシスタントのノウハウを
 詰め込んだ一冊です。



※ご希望の方は下記迄、御連絡下さい。
 長田電機工業(株) / お客様センター
 〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
 ☎03(3492)7651(代)



〈院長から一言〉 吉田隆義

当院は患者層の関係から土曜・日曜も開院しておりますので、スタッフもローテーションを組み、週休3日を原則に勤務してもらっています。治療は大学レベルを維持していますし、適齢期の方が多いので、色々難しい面もありますが、皆さんよく頑張ってくれています。常々注意していることは、やはり相手の身になって考える「思いやり」ですね。これは患者さんばかりではなく、院内

の掃除や器材等のセット一つについても云えることです。衛生士には研修会や他院の見学。助手の人には話し方教室など機会を見て出席させるようにしております。一昨年過渡期があり、スタッフがだいぶ変わりましたが、現在のスタッフは年齢の割には素直な性格の子が多いようですし、仲も良いようで安心しています。点数ですか? 2人のあゆみさんもよくやってくれますし、これからまだ伸びる人達ですが、責任感もあり80点は充分いっていると思いますよ。

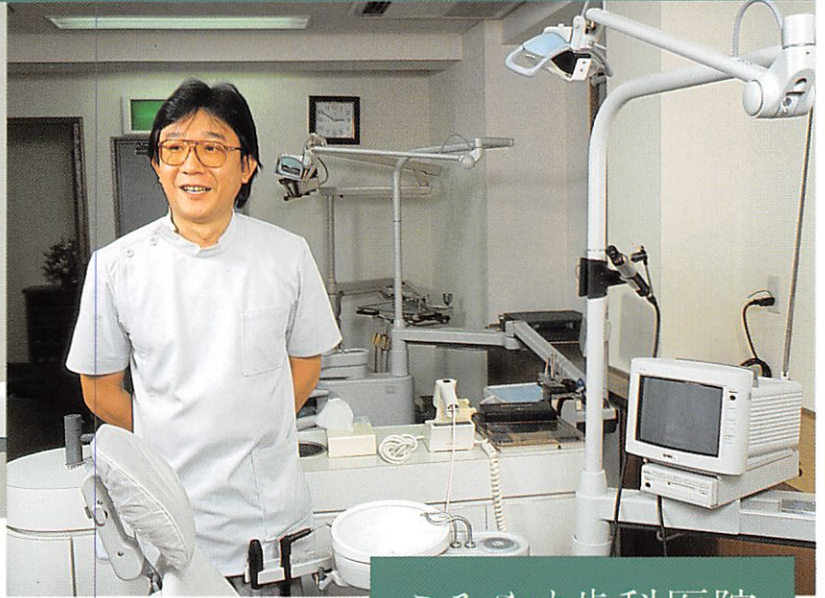
診療室訪問シリーズ



※画面の映像はハメ込みです。

オサダシンプルビジョン

東用第122号



こみやま歯科医院

川崎市川崎区砂子2-2-2
第一小宮山ビル2階

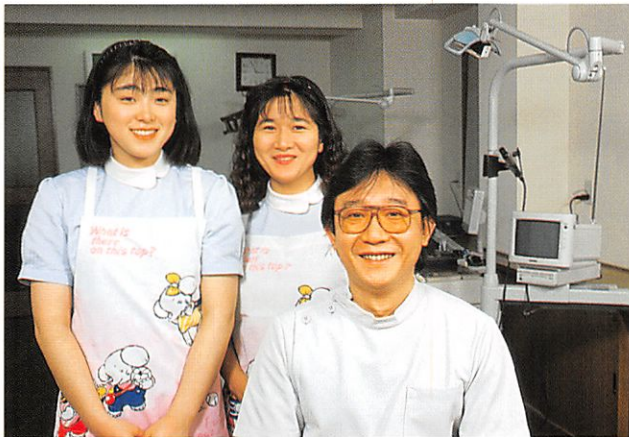
院長 **小宮山義和**
(日本大学歯学部卒・33才)



×線写真で見せるより数倍の説得力。
納得しあつた診療には、
このシンプルビジョンは
欠かせませんね。

川崎駅・東口駅前の仲見世通りと銀柳会通りが交差した角から2軒目のビルの2階に、ご紹介の「こみやま歯科医院」はある。
2ヶ月前に開業したばかりとあって、室内もユニットも真新しく気持ちいい。
院長は卒業後、保存学教室で3年間研修を積み、その後高円寺、昭島市等で臨床の実験を学び、先々月此処生まれ育った川崎駅前にてご開業。「周辺に歯科医院が多く、大変な場所であるとかかっておりまして、実家でもありますし思い切つて……。でも開業されている先輩の方々が、アドバイスや励ましの言葉をかけてくれ、その包容力には感謝しております。開業したばかりでまだ採算ラインには乗っておりませんが、自分で納得のいく診療——口腔内は私の歯科医としての作品と自信を持って云えるような丁寧な診療、そして信用を積み重ねて行きたいと思っております。」

◇
スマイリークローベルユニットのアーム上にはシンプルビジョンが、浅草で開かれたデントラルショーで見ても即決しました。患者さんの中には周辺の疾患箇所がわかっていない方も多勢おります。そんな時、このシンプルビジョンで直接写し、見せてあげますと不信感ももとより、自身の口腔内の現状をキチッと把握します。その後の治療が、お互いに納得出来たわけですから非常にやり易いですね。大学・勤務医時代を通して4〜5社の製品を使いましたが、信頼度ではオサダが一番でしたので、開業時には総てオサダに一括しました。



※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。

診療室訪問シリーズ

蔵本歯科医院

千葉市花見川区幕張本郷7-28-1

院長 蔵本 誠 副院長 蔵本理津子(旧姓・中川)
(東京医科歯科大学卒・32才) (東京医科歯科大学卒・29才)



OSADA
Fine GM L型

製造承認番号03日第0455号

開業医にとってアフターケアの

良さは絶対条件。

講師の先生方からも

薦められました。

順調で問題ありません。



住宅、スーパーマーケット等が建ち並び、発展途上にある街。ご紹介の蔵本歯科医院も、マンションの1階1角、コンビニエンス・ストアと並んで開業されている。

待合室から診療室に続く床は白木の細い木目。各所に曲線を使い、室全体を柔らかい印象に仕上げています。白を基調にグレイをアクセント色として使用されている院内雰囲気

も、若々しいイメージ、新しい住民・患者層に好評なのであろう。従って患者数も「休憩する暇もないぐらいの忙しさ」とのこと。開業(平成5年4月)ま

JR総武線・幕張本郷駅から千葉方面に向かって、長い陸橋を渡り約6〜7分。辺りは新しいマンション、

もない医院であるが順調すぎる程のスタートである。——ご夫婦で一日中いっしょに仕事をやられてのご感想は? 「日中は患者さんやスタッフの人達との対話が主で、夫婦の会話は少ないですよ。飽きなど考えたこともなかった(笑)」と院長。「自分達の医院だと思っから、やりがいもありますし、毎日が一生懸命。たのしいですよ」と副院長である奥様が。将来は「勉強して来たことを基本に、新しいものを取り入れ、地元に着した信頼される医院づくりを」とお二人揃って。

◇
◇
オサダのユニットは学生時代から馴染みがありましたし、使い易かった。それと私達開業医にとって、アフターが悪いのはとにかく困ります。講師の先生方からも「ユニットならオサダが良いよ」と薦められ……。ヘアインGM 4台使っておりますが、順調で問題ありませんね。



◇

◇

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター宛にハガキでご請求下さい。